

75 小規模草地における水稲用バインダー活用による牧草の刈取収穫技術

福島県畜産試験場 沼尻支場・平成12年度畜産試験場成績概要

- 1 部門名 飼料作物－草地－収穫・乾燥・調整 分類コード 08－01－24000000
- 2 担当者 小林 準・佐藤茂次・高萩淳子・沼 玲子*（*相双農林事務所農業振興普及部）
- 3 要 旨

小面積の遊休農地の有効利用による良質自給飼料生産を目的としてマメ科牧草を導入し、既存の機械活用による収穫調製作業の効率化を図るため、水稲用バインダー（以下、バインダー）とブッシュクリーナーによる作業時間を比較した。その結果、バインダーの有効性が明らかとなった。対象牧草は、アカクロバ単播、アルファルファ単播、アカクロバとオーチャードグラス混播およびアルファルファとオーチャードグラス混播とした。ブッシュクリーナーを使用した場合には、刈り取った牧草を手作業で集め麻紐で束にした。バインダーでは刈取と同時に牧草が束となるが、束にならなかった場合には手作業で結束した。バインダーには先端部の感知装置が水稲を感知し刈取を開始する機能があるが、牧草への利用は感知装置により牧草が押し倒されるので、感知装置は取り外して使用する。刈取後牧草は水稲用ビニールハウスに運搬し、ハウス内で斜掛けによる風乾を行ったがカビが発生したため、今後の検討課題となった。

(1)作業時間：バインダー使用の場合は刈取収穫時間においてブッシュクリーナー使用対比67%、結束時間では対比13%、刈取・結束合計時間では対比27%となり、バインダー使用による作業効率化が可能であった。

(2)混播の必要性：アカクロバ単播区（バインダー）では絡み合ってバインダー結束効率が悪く、作業時間で他の区より劣っていたので、イネ科との混播が不可欠であった。

以上のことから、バインダーの利用は大型機械を使用できない小規模草地において作業効率の優れた方法であり、肉用牛繁殖経営の自給飼料生産においての活用が考えられる。